



第28回通常総代会の開催

「提案の議案は賛成多数で採択」

令和8年6月21日(日) 13時
30分より東京エレクトロンホール
401会議室にて開催され、提案の
第1号議案から第5号議案まで賛成
多数及び満場一致にて採択されまし
た。採択の詳細はホームページに掲
載してあります。

最後に、中村総代よりアピールの
提案があり、満場の拍手で採択され
ました。(採択決議されたアピール
文は別紙に掲載あり)

2026年度事業計画

① 組合員活動 各地域活動

泉西部地区、若林地区、名取地区、
石巻地区の活動を継続支援しま
す。

地域で顔の見える活動を行い「仲
間作り、仲間を増やす活動を展開
します。

② 職員交流研修会

経営状況の悪化、コロナ禍など
で職員間の交流を図れずにいま
したが、宮城高齡協で働く仲間
同士が集つて、お互いの顔
や仕事内容を理解しあい、親睦

を深める機会とします。

③ 介護保険で補えない支援体制作り

「ぶし利用者の介護保険外の支
援が必要な方に対する、支援体
制作りの検討をします。

④ 終活事業について構想の検討

他単協で取り組んでいる終活事
業について学びながら、宮城高
齡協でも取り組みができないか
検討していきます。

⑤ 宮城高齡協の発展をめざし、中長 期計画を策定していきます。

組合員のみならずまの協力を引き続
きお願いいたします。

2026年度 新理事体制

理事長 伊藤恵仁

副理事長 水戸部秀利

副理事長 長尾智美

専務理事 藤田均

理事 鈴木光子(新) 丹野幸子

理事 富永捷恵(新) 半澤晃

理事 永野まり子 三船洋人

理事 渡邊せつ子

監事 横尾成雄 白鳥誠

退任理事の紹介

加藤公子さん 千葉静さん

外尾裕子さん 以上3名

長きにわたる理事を務めていただき
誠にありがとうございました。外尾
理事については令和7年9月25日に
逝去されました。ご冥福を申し上げ
ます。今回退任された理事のみならず
まは記念品を贈呈しております。



総代からの質問回答をする
伊藤恵仁さん

指定管理の受託のお知らせ

令和7年8月の募集説明会への参加
から始まり、9月の応募期間まで泉中
央老人福祉センターのスタッフ、常務
理事会、事務局が協力して資料作りに
取り組み、仙台市泉中央老人福祉セン
ターを継続・受託(6期)することがで
きましたことを報告いたします。



終活事業についての研修報告を
する中村総代

★―各事業所の活動報告―★

小規模多機能型居宅介護事業所

この庵ぐいし

「菅野ローラの昭和歌謡ショー」
「ゴールデンウィーク真っ最中の5月4日(月)に塩竈市出身でヨーロッパを周るクルーズ船での歌手、東京銀座の店や福祉施設で歌手活動をしている菅野ローラさんを迎えて「昭和歌謡ショー」を開催いたしました。いろいろ庵ぐいしのホールには近所の方も集まり満席の状態で盛り上がりました。



歌うことが大好き、みなさんの笑顔をつくります。と、ホールいっぱい歌に包まれました。

泉西部地域福祉事業所

約50年の歳月が流れ、高齢の二人住まい、ひとり暮らしの方が多くなりました。また、住宅地のあちこちに、建て替え工事が目につき、若者の転入は大いに歓迎ですが、時代の移り変わりに寂しさを感じます。

先般、こんな相談がありました。「この暑さの中、窓も開けていない、あまの見かけない、玄関の外に桶に入った洗濯物があつた、腰が痛いと言っていたようで、どこかのリハビリに行ったようだかやめたとか、たまに差し入れを持っていくが、玄関から奥は整理されていない、部屋の空気がよんでいるようだ」

早速、地域包括支援センターに連絡をとり、来訪し、話をすることが出来ました。数日後には家族と連絡がとれて7月にケア会議をするということになりました。「近所の気づきや見守りの大切を感じました。」

高齢化に対処する介護の仕組みをあらためて学びなおさなければと感じる日々です。高齢協の存在意義が今こそ問われるのではないのでしょうか？

石巻地区

「ひなたぼっこ石巻は、新しい活動」

スタイルで継続そして発展」

みなさんの集える場として2012年より14年間石巻市大街道に会場をお借りしてサロン活動を中心に、フリーマーケットや震災復興イベントなどいろいろな企画を実施してきました。その中では石巻市で有名な「白いたこ焼き」を作って販売する組合員もいて、イベント販売ですぐに売り切れるなど好評でした。

また、サークル活動も活発に行われパソコン愛好会、着物をリフォームするサークル、生け花、カラオケなども行われました。ワゴンコインで教える書道教室は人気で週2回開催しています。

音楽をしながら軽体操をする「ひなたぼっこ元気サロン」は、地元新聞にも紹介されるなど活発な活動を展開してきました。

そのような中、今後の事業運営について話し合ったために、3月15日・16日に石巻組合員のつどいを開催し、4役も交代で参加しました。結果、14年間の物件借用を終了し、もっと身近に活動を広げることについて、組合員の自

由な発想に対応していくこととしました。これまで、組合員拡大や増資に積極的に取り組まれ高齢協を支える大きな柱の石巻がより発展していくように新たな道を進んでいきます。

拠点となる会場はなくなりますが石巻市通所介護サービス支援「ひなたぼっこ元気サロン」やサークル活動は他の会場で継続活動していきます。



ひなたぼっこ元気サロンのみなさん

若林地区

「暮らしのお手伝い・生活支援活動」

介護保険を利用していない方への暮らしのお手伝いをする「生活支援活動」を有償で行っています。

会員の堀本さんの話

「買い物、振込み、掃除、窓ふき、片付けなど頼まれます。ほとんどひとりで暮らしの方ですが、すっきりと

整理されているお宅が多く、私自身を見直す機会にもなっています。」
会員の庄司さんの話

「草取りのボランティアを始めて4年になります。何人かで依頼者の家の周りを月2回程度、朝1時間の作業ですが、依頼者から感謝の言葉を聞くと疲れも苦になりません。



若林クリニックの草取りに参加のみなさん
5/17(日)夏のような日射しでしたが、12名が9時に集合して実施しました。

いずみいきいき会

仙台市泉中央老人福祉センターのボランティア「いずみいきいき会」の環境部のみなさんは、「花いっぱい活動」に取り組んでいます。まずはセンター内にある花壇の草取りを行い、季節に合わせてさまざまな花を植えています。センターに訪れた人が口々に「あら〜きれいだ、素敵」

と声をかけてくれるのが一番のうれしです。環境部は所属するボランティアさんが少なく、特に男性が少なかったのですが、作業を見ていた心優しい男性が「手伝ってやるよ」と参加してくれるようになり、とてもたのしい環境部になりました。環境部はこうした美化だけではなく、近隣の福祉施設に草取りや窓ふきなどの活動も行っています。



仙台市泉中央老人福祉センターの花壇整備をする
「いずみいきいき会」の環境部のみなさん

*名取地区の組合員活動はお休みしております

*「いつものクイズ」はお休みいたします。



【理事長「リム」】

高市首相が国会に提出した「皇室典範改定」今の天皇には愛子やついで派なお嬢さんがおられ、国民の8割近い人が、「女系天皇でいいじゃないか」と考えていることが明らかになっているのに、高市政権は「皇室典範改定」を強行し、男系男子での天皇継承を不動の原則として、「一般国民である旧宮家の男子を皇族の養子に迎える」とする内容を強引に決めたのです。これには全国各紙が一斉に採決強行を批判しました。新聞各紙が、「国民を愚弄するやり方だ」（「読売」）と厳しく批判しましたが、さらに高市首相は「副首相構想」なるものを掲げ、挙句、消費増減税も「1%」に止めるとする意向で、これには各野党からも「2年後には実質増税だ」という批判も出る始末です。こんな高市首相の姿に、国民の間からは厳しい批判の声が上がリ、全国に燃え広がっています。今回は私はこうした高市首相の今のすべての政治的立ち居振る舞いについて、去る6月29日

国会前の集会で、東京大学大学院で教育学を教える本田由紀教授が行ったスピーチの「一節を紹介して今回のこの随想を締めくめたいと思います。

「高市が首相になるずっと前から、この国はどんどん子供が減り、経済も科学技術もただだがり、そうした状況が長期的に続いてき

ました。人々の生活は苦しくなるばかりなのに是正をしないのが、生活保護は最高裁で違法判決が下るほどの不当な給付額の削減を行い、増税や社会保障削減を増やし、人々の間に分断や憎悪を煽ってきました。人口や労働力が減る日本を、外から支えてくれる人達にも、文字通りの命を奪う入管行政や、経営者への要件を急激に上げるなど、虐待・いじめといえるような対応をしています。こうしたすべてに言いたいのは、「一体お前たちは何がしたい」何もかもつまみ食い回らない。国の成り立ちを根底から破壊するようことばかりしているのが自民であり、高市であり、そこにぶら下がる維新や参政であり、今の中心にいるのが、高市早苗、ということです。

命も生活も尊厳も守れない、守ろうとしない。なんでもなんでも力があるものはばらばらとおく必要があるのか。主権者たる私達には、言う権利があります。

「リムさん、さーと。」

数多くの人々に弊害をもたらすようなことをやり続けるお前たちには、そこにいる資格などない。まじつとその汚い手で憲法をいじめるな、許さぬ。

7/11〜本田由紀東大教授の演説より

(理事長・伊藤恵仁)

あの人・この人紹介

「楽しいから、続けられる」

ボランティアは止められない」

あかまやえこ

【赤間八重子さん】 仙台市泉区



いつも仲良し、同じ年齢、同じ町内、25年の仲

みねぎし
【嶺岸あや子さん】 仙台市泉区

仙台市泉中央老人福祉センター内（以降センター）にあるボランティア会「いすみいきいき会」の環境部に登録、センターの美化活動に率先して活躍するお二人は、同じ町内の二軒隣同士で同じ年齢、いつも仲良しの赤間さんと嶺岸さん。二人は25年の付き合いだそうなんです。

ボランティアを始めたきっかけはセンターに来ているうちに「場所が近いこと、いろんな人とおしゃべりができること、いつでも来られること」の条件が重なり、「何よりやって楽しい」ことが一番だそうです。センター内の環境整備だけではなく、「干し柿作りイベント」に参加したり、近隣の福祉施設の窓ふきや、草取りなどにも参加しています。

センターの「干し柿作りイベント」に参加
ここでも仲良しコンビが大活躍です。



近隣の福祉施設グループホームで終るき活動の赤間さん



ボランティアは他の場所でも実施しています。近頃のコミュニティセンターで毎週火曜日に集まり、1時間ほど自主的な創作軽体操をしているそうです。年齢を重ねた分、活動も重ねている二人ですが「最近は何かがなくなった。年齢かもね。でも家にじっとしていてもダメだと思うので、マイペースで頑張っています」と話していました。どこに行くにも互いに声かけしながら、ほとんど一緒に行動です。

最近、スマートフォン片手に仙台市の「いすみペイ」に登録してポイント集めを始めたそうです。83歳とは思えない行動力です。赤間さんは保育園で調理の仕事をしていた経験から調理が得意で、嶺岸さんは社会福祉協議会でセンター運営の仕事をしていたそうです。二人とも笑顔がとても素敵な方です。「私でも役に立てるなら、行くところがあるから、だから続けています。そして何よりも楽しいです。」「と、今を語ってくれました。

震災復興支援運動の

継続を目指して

2026年3月11日は東日本大震災後15年となりました。

宮城高齢協はOB会を先頭に全国の高齢協に呼びかけ、4月11日に記念事業として「震災復興15周年記念ツアー」を実施しました。これには全国7県から合計25名が参加しました。ツアーバスの中では「いわき市民訴訟原告団長・伊藤達也氏の資料」に基づいて、大川小学校を襲った津波の悲劇や女川原発の被害と福島原発の被害の差、原発事故からの問題と課題等についての発表がありました。また石巻市大街道にある「ひなたぼっこ石巻」にて被害に遭われた方々との交流がありました。

震災の復興は未だ完全には立ち直っていないばかりか、原発事故の復興には程遠く、原発の廃炉におけ運動を持続することが最大の課題となっています。高齢協としても引き続き力を尽くしていくことを誓い合いました。

2026年6月5日現在
組員数 1136名